

令和4年度事業報告

1 概要

【概況】 新型コロナウイルス感染症は3年目を迎え、夏から冬にかけ、第7波、第8波が相次いで襲来したが、世間の警戒感次第に薄らぎ、令和4年度の年間入館者数は5882人と昨年度を300人ほど上回った。3つの企画展がそれぞれ約1000人、特別展が3000人ほどとコンスタントな入館者数だった。とはいえコロナ禍以前の年間7000人にはまだ届いていない。

【特別展】 奈良市の文化財専門写真館「飛鳥園」の創業100年を記念した「仏像の美 飛鳥園と會津八一」を開催した。八一が写真館創業を強く勧めた小川晴暘との交流を紹介した。中でも八一が斑鳩で詠んだ自筆書作品や、晴暘が撮影した新薬師寺の伐折羅大將立像ばさらいしょうりゅうぞうの威嚇に満ちた厳しい表情と、晴暘の子・光三が撮影した中宮寺菩薩半跏像の柔和なほほえみをたたえた表情の対比、国宝、重要文化財に指定されている仏像を映し出した大型写真の迫力が評判となり、入館者は2965人を数えた。昨年の特別展「會津八一と茶の湯の世界」は5年ぶりに3000人を突破したが、それに迫る勢いだった。

【企画展】 八一の生誕140年となった令和3年は、年度末に「會津八一名品50選—獨往—」を発刊した。令和4年度の春と夏の企画展はこの図録の発刊を記念して「漢字・かな編」と「手紙編」に分けて掲載作品を中心に展示した。冬は「折って広がる美の世界」と題し、屏風や扇子、折帖など、普段折り畳んである作品を広げることで展開される新たな世界を披露した。

【八一祭(7月31日)】 俳優で書家の松村雄基さんと角田勝久新潟大学准教授とのトークショーも3回目を迎えた。夏の企画展「手紙編」に合わせ、壇上で互いに宛てた手紙を揮毫してもらったほか、松村さんには八一が若い芸術家に宛てた長文の“お説教状”を朗読してもらったこともあり大好評だった。参加者全員に八一の書入り団扇を配布し喜ばれた。

【いしぶみ散歩】 昨年10月末、新潟市内にある八一の歌碑や揮毫碑6基を徒歩で巡った。安全面を考慮し、少人数に限定したが、館長、学芸員が随行し、1基ずつ解説したことも好評で5年度も継続して実施する予定。

【写真コンテスト】 16回目を迎えた「秋艸道人賞・写真コンテスト」には全国17都道府県から昨年を上回る184点の応募があり、写真愛好家には定着してきていると浅井慎平委員長からも評価をいただいた。

【普及活動】 ①館長連続講座 令和3年度から始めた野中浩俊館長による連続講座「書に親しむ(2)」は4回開催。コロナ感染防止のため120席に絞ったこともあり、補助いすを出すこともあり盛況だった。4回すべて受講した方には「八一の歌碑 新潟編」を進呈した。

2、事業の内容

(ア) 展覧会事業

常設展経費 2,632,962円(3年度=2,582,258円=比1.97%増)

特別展経費 3,831,436円(3年度=4,615,941円=比17%減)

	3年度 入館者数	3年度 開催日数	3年度 入館累計	4年度 入館者数	4年度 開催日数	4年度 入館累計
4月	199	22	199	238	23	238
5月	278	26	477	355	26	593
6月	392	24	869	326	26	919
7月	414	23	1283	360	21	1,279
8月	222	27	1505	201	26	1,480
9月	130	8	1635	436	22	1,916
10月	1117	26	2752	1,068	25	2,984
11月	1214	25	3966	1,381	26	4,365
12月	779	17	4745	553	17	4,918
1月	270	24	5015	244	24	5,162
2月	196	24	5211	276	24	5,438
3月	375	24	5586	444	23	5,882
合計	5586	270		5,882	283	

4年度観覧料収入=総額 1,973,790円(前年度比156,523円増)

特別展 1,042,500円(同88,297円減) 常設展 931,290円(同244,820円増)

【特別展】＝本年度は飛鳥園創業 100 年を展示タイトルの冠として表記した

飛鳥園創業 100 年 仏像の美- 飛鳥園と會津八一 -

会 期：令和 4 年 1 0 月 4 日（火）～1 2 月 1 1 日（日） 開催日数 60 日間 図録 156 冊販売

会 場：新潟市會津八一記念館

入館者数：2, 9 6 5 人（前年度＝令和 4 年 10 月 2 日～12 月 12 日 「會津八一と茶の湯の世界」 3, 041 人）

主 催：公益財団法人會津八一記念館、新潟市、新潟日報社、BSN 新潟放送

特別協力：（株）飛鳥園

協 力：浅川園、今成漬物店、大阪屋、里仙、高橋酒造

後 援：朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、
共同通信社新潟支局、時事通信社新潟支局、NHK 新潟放送局、NST 新潟総合テレビ、
TeNY テレビ新潟、UX 新潟テレビ 21

創業 100 年を迎えた奈良の文化財専門写真館・飛鳥園の創業者である写真家・小川晴暘（1894～1960）と會津八一の関係を紹介する特別展。大正 11（1922）年、晴暘は八一に勧められて、仏像や古社寺などの文化財写真の専門店、飛鳥園を創業する。その後晴暘は八一が会長を務める奈良美術研究会の監修で、写真集『室生寺大観』（1924 年刊）などを発表し、世に知られるようになった。モノクロからカラー、デジタルへと写真技術も進化しているが、晴暘のモノクロ写真の技術は高く、現在でも高く評価されている。

展示では、晴暘が撮影した奈良の仏像写真と、それに合わせて八一の自詠自筆の書を中心に紹介した。中でも法隆寺、中宮寺、法輪寺、法起寺など、奈良・斑鳩地方の展示では、初公開となる法隆寺所蔵の八一の書もあり、知られざる八一と法隆寺の交流に焦点を当てることができた。

「展示の作品数が少なかった」という声もあったが、飛鳥園から借用した高精細のデジタル写真は 1 点 1 点のサイズが大きかったため展示数が限られる制約もあった。それでも全体の展示に対する好意的な評価が 97% を占めた。普段見ることのできない仏像の細部まで写し出されていたことが高評価につながったようだ。受付でも奈良の仏像の雰囲気味わえたと感謝されることもあった。

【企画展】

① 「會津八一名品 50 選」発刊記念 獨往の書 -漢字・かな編-

会 期：令和 4 年 4 月 5 日（火）～7 月 3 日（日）

開催日数：79 日間 名品図録 153 冊販売

入館者数：9 8 2 人（前年度＝春「八一を知る 八一がわかる 俳句編」 869 人）

會津八一生誕 140 年事業として令和 4 年 3 月に刊行した当記念館所蔵品図録『會津八一名品 50 選』に掲載された作品を中心に紹介する展覧会。「獨往」は八一の生き方、書制作の態度をしのばせる語句であり、タイトル、メインビジュアルとして使用した。門下で歌人の吉野秀雄も、八一の書を「個性的独創的で、世人の追随を許さない」と称賛するなど各界で評価されているが、鑑賞者にはシンプルに八一の「獨往」の書を紹介する機会となった。

展示は、サブタイトルの「漢字・かな編」の通り、所蔵品図録に掲載された中で、かな書、漢字書を中心に紹介した。昭和 21 年以降の晩年の書が中心だが、かな書は「かすがのに」「おほてらの」などの奈良歌から地元・新潟を詠んだ歌「みやこべを」、八一最後の歌となった香川県八栗寺を詠んだ「わたつみの」まで、様々な自詠自筆作品を展示。漢字書は昭和 16 年発刊の図版集『渾齋近墨』掲載「風竹図・蕭騷寒雨夜」や最晩年の対聯「相見呵々咲」「園林落葉多」などを紹介した。アンケートの自由回答欄では「八一の書の魅力を凝縮した展示」と回答があるなど、収蔵品の名品をまとめて鑑賞してもらえる機会となった。

② 「會津八一名品 50 選」発刊記念 獨往の書 -八一の手紙編-

会 期：令和 4 年 7 月 12 日（火）～9 月 25 日（日）

開催日数：66 日間 簡易図録 92 冊販売

入館者数：9 3 4 人（前年度＝夏「学規と教育」 766 人）

會津八一生誕 140 年事業として令和 4 年 3 月に刊行した当記念館所蔵品図録『會津八一名品 50 選』に掲載された作品のうち、夏季企画展は手紙を中心に構成した。

八一は生涯で 2 万通を超える手紙を送るほど、筆まめな人であった。八一の手紙には、彼の人柄、生活、処世、

学芸に対する主張などがにじみ出ており、その卓越した文章力と筆跡の美しさが相まって異彩を放っている。

展覧会では、作品として意識して記した書簡「與奥田勝書」「歌をよむには」「中田瑞穂宛書簡」から、八一の感情が強烈に表れている私信まで一堂に展示。さらには、大正時代末から八一を支援した古美術評論家・料治熊太（1899～1982）が今年で没後40年を迎えたことから、料治との交流をしのぶ手紙や資料も併せて陳列した。

アンケートでは、「八一の手紙がとても見ごたえがあった」「奥田勝に与ふる書に励まされた。学規と合わせて伝えたいことの大きさを感じる」など、手紙から浮かび上がる厳格な芸術論などさまざまな八一の内面が来館者に伝わったものと思われる。アンケート集計では、県外来館者の割合が35%と、コロナ禍前に戻りつつある状況であった。

③ 會津八一 折って広がる美の世界 -屏風・折帖・扇子を中心に-

同時開催：第16回秋艸道人賞「會津八一の歌を映す」写真コンテスト入賞入選作品展

会期：令和4年12月20日（火）～令和5年3月26日（日）開催日数78日間。簡易図録78冊販売

入館者数：1,001人（前年度＝『全歌集』刊行70年 會津八一の短歌と生活』910人）

屏風、折帖、扇子などの書画作品は、一般的には芸術として見られているが、元々は日常生活で実用的に利用されていた。その後、徐々に芸術性を持って鑑賞されるようになってきた。展覧会では、当館所蔵の屏風、折帖、扇子形式に仕立てた會津八一の書作品を中心に展示し、軸装や額作品のように一つの面で見せるものとは異なる場面展開の魅力を紹介した。アンケートでは「扇子や屏風、八一先生の新しい見方をご教示いただける目新しい展示だった」「扇子、屏風、折帖など趣味性の高い物だと思っていたが、内容には作成する際の心もようがあらわされている」と、来館者には屏風、折帖、扇子に対する新たな鑑賞方法を提示できたようだ。また、展示作品により親しんでもらうためのクイズも、「毎回楽しみにしている」という感想があり、来館者に浸透してきている。

（展示に対する評価）＝入館者アンケート結果（○は好評、△は不評）

回答者502名（回答率8.5%） ※前年538名 回答率9.6%

展覧会名	作品解説の評価	展示量の評価	全体的評価
仏像の美	○ 87% △ 10%	○ 79% △ 19%	○ 97%（とても良かった64%、良かった33%） 普通 2%
獨往の書-漢字・かな編	○ 97% △ 2%	○ 91% △ 8%	○ 95%（とても良かった61%、良かった34%） 普通 4%
獨往の書-八一の手紙編	○ 93% △ 5%	○ 94% △ 6%	○ 94%（とても良かった71%、良かった23%） 普通 5%
折って広がる美の世界	○ 90% △ 5%	○ 95% △ 3%	○ 92%（とても良かった72%、良かった20%） 普通 3%
合計	○ 90% △ 7%	○ 86% △ 13%	○ 95%（とても良かった66%、良かった29%） 普通 4%

（接客に対する評価）良い70% 普通28% 悪いor無回答2%

（主な来館者）※当館理事、評議員は除く

4月＝書家・丹羽芝水氏（5日）、BSN新人研修（6日）、新潟日報新人研修（8日）、書家・佐藤雅風氏、絵手紙講師・高山久美子氏（10日）、NST新人研修（15日）、十日町市博物館・石原正敏氏（24日）、坂井輪中学校・寺本正知先生（29日）

5月＝文信堂・西村会長夫妻（4日）、八一の姪の嫁・鈴木紀子氏と拓也氏（5日）、篆刻家山田正平の孫・山田正氏（17日）、新潟市瀧東樋口記念美術館・橋本博文館長、秋艸会会長・高橋道映氏（24日）、駒形十吉記念美術館・古塩充館長（26日）、新潟市立上山小学校・大矢隆氏、書家・朝平霞山氏、東京外国語大学名誉教授村尾誠一先生（29日）

6月＝新発田市立豊浦中学校・加藤和広先生（12日）、早稲田大学會津八一記念博物館助手・行方氏と太田氏、新潟県書道協会理事長・樋口志保氏（15日）、俳句団体「銀化」・寺尾亜真季氏、秋艸会元副会長・早川哲夫氏（18日）、新潟市観光推進課宮真菜主事、畑友教係長、新潟県港湾振興課・水品拓也主任、豊田佑一政策企画員、ジャパネット・養原一隆シニアリーダー（22日）

7月＝新潟市立木戸中学校・永田文子先生、淑徳大学小川博幸教授、東京学館田村裕先生（2日）、書家・伊藤省風、

路可夫妻、書家・大井岳陵氏（3日）、国土交通省北陸地方整備局新潟港湾空港整備事務所・武田均副所長（12日）、書家・山田修也氏（17日）、書家・今井昭友氏（22日）、中条會津八一会副会長・今村克治氏（27日）、新潟高校・今井先生（28日）、俳優・書家松村雄基氏、中村屋サロン美術館学芸員・太田貴美子氏（31日）

8月＝にいがた文化の記憶館理事長・長谷川義明氏（17日）、平安堂・中村正平氏（18日）、新潟県書道協会会員団体、新潟市立山の下中学校・波多野宏先生（21日）

9月＝古文書研究者・増田孝氏（7日）、新潟絵屋・田代早苗氏（9日）、梧星会団体、書家立川井梧氏（11日）、BSN 会長・竹石松次氏（16日）、新潟信用金庫会長・阿部隆氏（16日）、書家・佐藤光堂氏、新潟第一高校・樺澤健一先生（17日）

10月＝法隆寺管長・古谷正覚師（3日）、北方文化博物館学芸員・田中氏（8日）、新潟市秋葉区役所・保科和毅氏（10日）、安吾風の館学芸員・岩田多佳子氏、みなとぴあ学芸員・大森慎子氏（12日）、江戸千家・中野宗順氏（14日）、中条會津八一会会長・丹呉庸平氏（18日）、美術史研究者・山浦健夫氏（26日）中野遵氏、高島義彦氏（30日）

11月＝新潟県立文書館元副館長・本井晴信氏（5日）、書壇院・岩田氏（8日）、葦原同窓会団体（11日）、りゅーとぴあ理事長・徳永健一氏（13日）、石工・左野勝司氏、書家・和田紫陽氏（26日）写真コンテスト審査員・村尾誠一氏、若松保広氏（29日）、書家・木伏清泉氏（30日）

12月＝金升酒造・高橋社長（4日）、寄贈者・山田トワ氏（8日）、書家・三膳春雪氏、寄贈者・鶴田邦子氏（9日）、書家・小林哇水氏、新津美術館元館長・横山秀樹氏、飛鳥園小川社長の妹様（11日）

5年1月＝書家・船久保裳苑氏（9日）、書家・坪内雪山氏（19日）、シネウインド・春川京子氏、画家早津剛氏（21日）、新潟市監査委員（27日）

2月＝八栗寺新見住職夫人（12日）書壇院町田玄洞氏（25日）

3月＝八一の甥の長男高橋春男氏、東京国立博物館名誉館員・古谷稔氏（3日）、田中直紀元代議士（9日）、法界院住職・橋本春峯師（22日）ミュージアムグッズ愛好家・大澤夏美氏（25日）、書家・江川蒼淵氏、現日会・浅見満氏（26日）

（イ）講演会事業

【記念館自主企画】

八一祭記念トークイベント（有料 1,000円）

テーマ：「心を伝える てがみの魅力」

対談：松村雄基氏（俳優）、角田勝久氏（新潟大学准教授）

日時：令和4年7月31日（日）午後3時～4時半

会場：日報ホール（新潟日報メディアシップ2階）

入場者：133人

① 特別展関連 第1回記念講演会（有料 500円）

テーマ：「法隆寺と會津八一」

講演者：古谷正覚師（聖徳宗管長、法隆寺第130世住職）

日時：令和4年10月3日（月）午後2時～3時半

会場：日報ホール（新潟日報メディアシップ2階）

入場者：119人

② 特別展関連 第2回記念講演会（有料 500円）

テーマ：「仏像写真の話」

講演者：金井杜道氏（写真家）

日時：令和4年10月18日（火）午後2時～3時半

会場：日報ホール（新潟日報メディアシップ2階）

入場者：86人

① 企画展関連 第1回文芸講演会（有料 500円）
テーマ：「和歌史・短歌史の中の會津八一」
講師：村尾誠一氏（東京外国語大学名誉教授）
日時：令和4年6月13日（日）午後2時～3時半
会場：日報ホール（新潟日報メディアシップ2階）
入場者：78人

② 企画展関連 第2回文芸講演会（有料 500円）
テーマ：「手紙から見た會津八一の書風」
講師：増田孝氏（古文書研究者）
日時：令和4年9月7日（水）午後2時～3時半
会場：日報ホール（新潟日報メディアシップ2階）
入場者：101人

③ 企画展関連 第3回文芸講演会（有料 500円）
テーマ：「日本の墨美と會津八一の書」
講師：古谷稔氏（東京国立博物館名誉館員）
日時：令和5年3月3日（金）午後2時～3時半
会場：日報ホール（新潟日報メディアシップ2階）
入場者：121人

(ウ) 普及活動事業

① 野中館長連続講座「書に親しむ」 会場：日報ホール（有料 4回連続2000円 1回500円）
第1回目 5月15日（日）「文人の書」 103人参加
第2回目 7月26日（火）「手紙の美しさ」 73人
第3回目 11月15日（火）「富岡鉄斎の芸術」 74人
第4回目 令和5年2月19日（日）「箱書の面白さ」 80人

② 作品解説会
・新潟市會津八一記念館企画展＝講師：野中館長、喜嶋、湯浅学芸員
野中館長：令和4年6月19日（日）、8月28日（日）、11月6日（日）、令和5年2月26日（日）
学芸員：企画展会期中 第2、4日曜日 午前11時～正午

③ 八一さんのいしぶみ散歩
野中館長、喜嶋学芸員同行解説
日時：令和4年10月29日（土）午後1時～3時半
コース：古町通～南浜通～西船見町～西堀通～古町通 約4km
参加者：13人

④ 出前講座＝その他の団体主催による講演
・8月5日（金） 講演：「歌びと 會津八一」
主催：新潟県高等学校文化連盟
会場：万代市民会館 講師：喜嶋学芸員 4人
・8月31日（水） 講演：「會津八一の魅力と修学旅行案内」
会場：県立新潟高校 講師：湯浅学芸員 350人
・11月22日（火） 講演：「會津八一について」
会場：胎内市立きのと小学校 小学5年生 講師：喜嶋学芸員 31人
・令和5年
1月14日（土） 講演：「會津八一と東大寺」
主催：とよさか中高年教養大学（豊栄地区公民館）

会場：北区役所

講師：湯浅学芸員 45 人

3月9日（木） 講演：「會津八一の魅力」
主催：きのと公民館（水ばしょう大学）
会場：胎内市中央公民館

講師：湯浅学芸員 90 人

3月19日（日） 講演：「古都礼賛」-會津八一が「酷愛」した奈良大和路の美-
主催：荻川コミュニティー振興協議会生涯学習部
会場：秋葉区荻川コミュニティーセンター

講師：喜嶋学芸員 35 人

⑤ 所蔵品貸出展覧会

- ・にいがた文化の記憶館企画展 所蔵品 3 点貸し出し
有恒学舎創設 増村朴斎 令和 4 年 8 月 6 日（土）～11 月 3 日（木・祝） にいがた文化の記憶館
- ・にいがた文化の記憶館企画展 所蔵品 2 点貸し出し
生誕 110 年 宮終二 越後が生んだ歌とその生涯 令和 4 年 11 月 26 日（土）～令和 5 年 2 月 28 日（火）

⑥ 15 回秋艸道人賞写真コンテスト入賞入選作品 巡回展

会場	開催期間	備考
1 奈良県立図書館	4 月 30 日～5 月 15 日	入賞入選 29 点
2 中村屋サロン美術館	6 月 8 日～7 月 10 日	入選入賞 29 点
3 三千院	7 月 21 日～8 月 28 日	入賞作品 7 点
4 いかるがホール（奈良県斑鳩町）	9 月 1 日～9 月 19 日	入賞作品 7 点
5 高松市市民活動センター	10 月 6 日～10 月 30 日	入賞入選 29 点、複製作品、浅井慎平作品 3 点
6 胎内市産業文化会館	11 月 11 日～11 月 13 日	入賞入選 29 点、浅井慎平作品 15 点

⑦ 出版関係

- ・八一往復書簡集「雁魚来往」第 10 集の刊行
編者：雁魚来往研究会（近藤悠子氏、角田勝久氏、本多和宏氏）
発行：會津八一記念館
形状：A4 判 110 頁
収録：會津八一の高弟・美術史家安藤更生と會津八一との往来書簡の図版、読み下し文、註釈、関連資料図版を掲載

⑧ その他

- ・博物館実習受け入れ
期間：令和 5 年 1 月 8 日（日）～14 日（土）
学生：2 人＝ 新潟大学人文学部人文学科 4 年生（西洋言語文化学専攻と日本・アジア・言語文化学専攻）

(エ) 学習講座

- ・會津八一の歌を読む会 講師：若月忠信氏（文芸評論家）
砂丘館 毎月第 1 土曜日 受講者 13 人

(オ) イベント

- ・「會津八一の歌を映す」第 16 回秋艸道人賞写真コンテスト（総事業費 3,321,759 円）

公募期間 4 月から 11 月（作品搬入 11 月 2 日～13 日）
応募点数 184 点（前回 175 点）
応募人数 123 人〈県内 82 人 県外 41 人〉（前回 111 人）

○テレビ：・特別番組「ふかくこの生を愛すべし」再放送（令和3年11月21日放送分）
令和4年11月25日（金）10：20～10：50 放送
八一祭に出演した松村雄基さんと新潟市の高校生・大学生3人が八一ゆかりの地を訪ね、作品に込められた八一の思いを改めて知る番組

・特別展開連

「BSN ニュース ひるおび内ローカルニュース、ゆうなび」2本
令和4年10月3日（月） 11：49～ 放送「仏像の美」あす開幕
令和4年10月3日（月） 18：15～ 放送「仏像の美」あす開幕

○CM：テレビ 455本

- ・9/5～10/3「仏像の美」告知 15秒（136本）
- ・10/4～12/11「仏像の美」開催中 15秒（319本）

ラジオ 179本

- ・9/5～10/3「仏像の美」告知 30秒（66本）
- ・10/4～12/11「仏像の美」開催中 30秒（224本）

ラジオ番組中継

- ・10/12（水）「3時のカルテット」内スナッピー中継 湯浅学芸員出演

○ BSN HP

- ・10/1～12/12 BSN イベント内 ページ開設

③ 市報にいがた

展覧会＝月1回全12回 イベント募集4回（市報にいがた別冊内）

（コ）学校団体見学

13校227人＝小学校2校、中学校9校、高校1校、大学1校

（令和3年度＝10校289人＝中学校7校、高校3校）

4月20日	新潟市立宮浦中学校	9人
4月27日	新潟市立大江山中学校	4人
5月10日	新潟青陵大学	13人
5月20日	新潟市立上山中学校	8人
6月11日	村上市立岩船小学校、神納小学校	19人
6月17日	清心女子高校	22人
6月29日	新潟市立曾野木中学校	6人
10月14日	新潟市立巻東中学校	12人
10月20日	新潟市立五十嵐中学校	122人
10月27日	中之口中学校	4人
10月28日	新潟市立下山中学校	4人

令和5年

3月7日	新潟市立白南中学校	4人
------	-----------	----